

中学校部活動地域展開 満足度アンケート実施企画書

株式会社アーシャルデザイン

1. 目的

令和8年9月より、東郷町における中学校部活動の地域展開（休日部活動）が本格実施されます。実施から一定期間が経過した段階で、活動に関わる指導者・保護者・生徒を対象に満足度アンケートを実施し、次の2点を明らかにすることを目的とします。

- ① 事業全体に対する満足度の把握
- ② 改善すべき点の優先順位の把握

また、単なる実態把握にとどまらず、調査結果を令和9年度以降の事業運営・指導者確保・保護者対応の改善に具体的に反映させることを目指します。

2. 調査設計の考え方

対象を「指導者」「保護者・生徒」の2グループに整理して設計します。生徒については、地域クラブに参加していない生徒も在籍することから、学校を通じた一斉実施は行わず、保護者と同一フォーム内で扱います。

- ・指導者：運営側との連携、活動条件、学校連携が中心
- ・保護者・生徒：安全面、費用、情報提供のわかりやすさに加え、生徒本人の活動満足度・継続意向も同一フォーム内で取得

また「①満足度の把握」だけでなく「②改善点の優先順位の把握」に対応するため、主要カテゴリについては「満足度」に加えて「重要度」も合わせて質問します。「重要度は高いが満足度が低い」項目を優先改善項目として抽出できる設計とし、集計時に重要度×満足度マップ（散布図）を作成して可視化します。

3. アンケート実施方法

(1)実施時期

令和8年11月頃（予定）

(2)実施方法

b+アプリの連絡ツールを使用し、指導者及び保護者宛てにアンケートフォームを通知する。

保護者・生徒向けアンケートについては匿名での回答とし、集計結果を公開する。

4. アンケート項目（案）

■ 4-1. 指導者向け

カテゴリ	設問例	形式
総合満足度	今回の地域展開活動全体への満足度	5 件法
運営体制	事務局（アーシャルデザイン／町）とのやりとりのしやすさ	5 件法 + 重要度
情報連携	連絡ツール（b+等）の使いやすさ・情報の伝達スピード	5 件法 + 重要度
活動条件	活動時間・頻度・謝金への納得感	5 件法 + 重要度
生徒対応	生徒の参加態度・活動運営のしやすさ	5 件法
学校連携	学校側（教員・施設）との連携のしやすさ	5 件法 + 重要度
安全管理	安全面のルール・保険等の説明の十分さ	5 件法 + 重要度
継続意向	来年度以降も継続して指導したいか	4 件法
自由記述	困ったこと・改善してほしい点	自由記述
属性	学校名／担当種目／雇用形態（兼職兼業等）	選択式

■ 4-2. 保護者・生徒向け（統合）

生徒本人が回答する設問（総合満足度・指導内容・活動時間・継続意向・自由記述）は「回答者」欄に「生徒」と明記し、フォーム内で生徒が直接回答できる構成とします。

カテゴリ	設問例	形式
総合満足度	地域展開活動全体への満足度	5 件法
事前説明	事前の説明会・配布資料のわかりやすさ	5 件法 + 重要度
情報提供	活動中の連絡・情報提供（日程変更等）の頻度・わかりやすさ	5 件法 + 重要度
安全面	安全管理・緊急時対応への安心感	5 件法 + 重要度
活動時間	活動時間・曜日・頻度の適切さ	5 件法 + 重要度
活動時間	活動の時間・回数はちょうどよいか	3 件法
子どもの変化	子どもの活動意欲・様子の変化（任意）	5 件法
自由記述	困ったこと・改善してほしい点	自由記述
自由記述	もっとこうだったらいいな、と思うこと（任意）	自由記述（短文）
属性	学校名／子どもの学年／参加種目	選択式

※参加世帯のみへの配布を想定し、学校を通じた一斉配布は行いません。

5. 優先事項把握のための分析方法

主要カテゴリ（運営体制・情報連携・費用・安全面・活動時間 等）について「満足度」と「重要度」の2軸で回答を取得し、以下の観点で集計・分析を行います。

- ・ 満足度が低く、かつ重要度が高い項目 → 最優先の改善課題として抽出
 - ・ 満足度・重要度をともに高い項目 → 現状維持・継続すべき強み
 - ・ 自由記述はカテゴリ別（運営／費用／安全／指導内容 等）に紐付け、定量結果と合わせて確認
- 集計結果は重要度×満足度マップ（散布図）として可視化し、町への報告資料に反映します。

6. 調査結果の活用（今後のアクション）

今回の満足度調査は実施して終わりとせず、以下のような具体的な次のアクションにつなげることを想定しています。

- ・ 継続意向が低い指導者へヒアリングを実施（フォロー面談を設置）
- ・ 優先改善項目について、令和9年度の運営体制・連絡ツール・活動条件等の見直しに反映
- ・ 指導者向けには「継続に必要な条件」を任意設問で取得し、指導者確保策の検討材料とする
- ・ 調査結果は町・学校・事務局（アーシャルデザイン）で共有し、次年度計画策定の基礎資料とする